

2015 年度活動報告 交換授業：レギュラープレ 1-1（会話・漢字）

牛窪 隆太（関西学院大学日本語教育センター）

内藤 真理子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

レギュラートラックで学ぶ日本語ゼロビギナーを対象に 2 クラス同時開講、週に 1 コマ（90 分）実施した。授業履修者には、ひらがな・カタカナの未習得者が含まれるため、文法クラスとの間で学習内容を明確に線引きすることはせず、文法クラスの復習をしながら、文字のケアを行い、学期途中から漢字を導入するという方針でクラス運営を行った。漢字については、漢数字（一～十）に加え、『日本語初級大地①』の 1 課から 11 課までの漢字 80 字を取り出したオリジナル教材をあらかじめ配布し、各回 10 個×8 回のセッションを行った。

2. 授業内容

授業で扱った学習項目は以下の通り。学期開始時：①ひらがな（カタカナは、名前、国名は必須とし、他は語彙ベース）、②数字、曜日、時間などの基本項目、学期中盤から：③文法クラスで書いたエッセイのシェアリング活動、④漢字の導入と練習（語彙ベース）。2 クラスの同時開講であったが、学期中盤からクラス間の学習進度に差が出てきたため、大枠は共有しつつ、各クラスに合った活動を盛り込んだ。

3. 成果と今後の課題

レギュラートラックの初級クラスの課題として、日本語学習についての意欲が問題とされるが、来日までに自国で準備を行い、ある程度のレディネスをもってクラスにやってくる学生と、日本語についてまったく情報をもたずにクラスにやってくる学生の両方に対して、いかに意味のある学習を提供できるかは、引き続きの課題である。漢字については、イントロダクションの時間を設け、日本語がまだわからない学生に対しても日本語の表記システムについての説明を行ったうえで授業をすすめたが、進度や内容について、学生の評価が二分する傾向もみられ、学生に対してどこまで要求するかについても議論の必要があると思われる。一方、文法クラスで書いたエッセイについて行ったシェアリング活動では、学生の反応もよく、クラス進度に縛られずに積極的に話している様子も見られた。最低限の要求と自由度の高い活動をどのように組み合わせるかが、今後の課題である。